

明日香村小委員会報告（案）の概要

社会資本整備審議会諮問：

「今後の明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等のあり方はいかにあるべきか。」

1. はじめに

- ・明日香村は、我が国の律令国家が初めて形成された時代における政治及び文化の中心的地域で宮跡・官衙跡、寺院跡、墳墓等の歴史的文化的遺産が、その周囲の丘陵や農地、集落の環境と一体をなして、歴史的風土が形成されている。
- ・この歴史的風土は、飛鳥地域の自然的環境を背景として、飛鳥時代以降、住民の生活や生業の中で現在まで重層的に育まれたものであり、このような環境が一度にそろう地域は非常に希有な存在で価値のあるもの。
- ・現在、第5次明日香村整備計画に基づく取組が進められており、明日香村を巡る社会情勢の変化や同計画の進捗状況も踏まえつつ、当面取り組むべき措置、将来的な取組のあり方について報告。

2. 明日香村を巡る現状とこれまでの取組の評価・課題

■明日香村を巡る現状

- ・近年、観光を軸とした村づくりが進められており、文化観光による歴史的風土の創造的活用に向けた取組が進捗
- ・飛鳥地域において世界遺産登録の推進、日本遺産の活用や村のベストツーリズムビレッジ認証取得の推進など海外への発信に向けた取組も進捗
- ・一方、人口流出等による人口減少や少子高齢化が継続して進行しており、担い手不足による歴史的風土への影響が懸念
- ・また、村の財政基盤は依然として脆弱であり、明日香村整備基金の運用益も平成初期から平成20年頃まで減少が続き、依然として回復せず。

■これまでの取組の評価・課題

○制度導入から第4次明日香村整備計画までの取組

- ・古都指定に加え、地域住民の理解と協力の下に村全域にわたり歴史的風土を保存していくため明日香法が制定
- ・明日香法制定から40年以上が経ち、土地利用規制や景観規制により、歴史的風土の保存だけでなく、集落景観の改善にも効果を発揮
- ・4次にわたる整備計画が住民生活の安定と利便性の向上に寄与してきたほか、歴史的風土の創造的活用の視点に基づく取組が第3次整備計画以降に開始

○第5次明日香村整備計画に基づく取組の進捗状況

- ・現在は、第5次整備計画に基づき、5つの基本的方向性に基づく取組を実施

1. 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進

- ・宮殿・官衙跡や墳墓などの計画的な発掘調査に加え、牽牛子塚古墳の整備の取組が進捗。高松塚古墳壁画の保存管理公開活用施設（仮）の設置や国営飛鳥歴史公園の再整備の計画も進捗
- ・一方、飛鳥宮跡及び飛鳥京跡苑池の整備や現在進められているAR・VR技術の活用による地下遺構等の見える化、ストーリー性のある理解しやすい歴史展示・ガイダンス機能の充実等、国、県、村の三者が連携した一層の取組が必要

2. 歴史的風土の維持・向上に向けた営農環境の基盤整備及び自然環境の保全

- ・建築物修景に関する支援により、集落景観の維持継承と住民の意識向上が図られ、新たな価値の創出にも寄与。
- ・担い手が減少し、管理不全となっている農地や樹林地、空き家、古都買入地の対策が必要

- ・農業戦略を策定し、村外からの農地を守る活動の受け入れや、省力化や戦略的な作物の実証栽培、明日香村内での就農に向けた研修などの取組を進めているが、インストラクターの高齢化や担い手不足を補う営農者負担の軽減が課題

3. 歴史的風土の維持・向上に向けた地域の祭礼行事や伝承芸能の継承・発展

- ・地域住民による行事の継続や芸能の継承が行われているほか、小中の児童・生徒を対象にした郷土学習などにより人材育成の取組が進捗
- ・今後も明日香村の価値を理解するためのツールとして、伝統的な行事や芸能取組の継続や発展が求められる中で、文化観光に寄与できる取組も必要

4. 国内外の来訪者が明日香らしさを体感できる観光交流の振興

- ・空き家等を活用した宿泊施設やカフェなどの商業施設の設置支援や、観光戦略を策定し、SNS等を活用したプロモーション等の取組が進捗
- ・一方、老朽化した周遊道路の再整備や、移動手段の整備など安心して周遊できる環境整備や視点場の整備の他、ゆっくりと明日香村に滞在するオーバーツーリズムとならない受け入れ環境の整備が課題

5. 村民が定住できる生活環境基盤の整備

- ・防災拠点や地域コミュニティの拠点となる新庁舎の整備、住民及び来訪者が利用できるデマンド型乗り合い交通の導入、定住や商業活動のための空き家バンク制度の実施など、生活環境基盤の整備が引き続き進捗
- ・一方、景観や史跡等に配慮した狭隘区間の道路整備、市街化区域を活用した定住環境の整備、住民・来訪者双方にとって利便性の高い交通システム整備、企業誘致を行うための環境整備などが課題

その他

- ・歴史的風土を継承していくためには引き続き住民の理解と協力が不可欠
- ・課題解決に村外の力を活用した取組を進める上で、飛鳥保存に対する理解促進が必要

○明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金の成果

- ・歴史展示の推進、営農環境の基盤整備、伝承芸能の継承・発展、観光交流、住みよい生活環境づくり等の取組に対する支援として、歴史的風土の創造的活用効果を発揮
- ・これらの支援により、遺跡等の歴史的文化的遺産と住民生活で成り立っている歴史的風土が一体的に守られてきた点でも評価

3. 当面取り組むべき施策のあり方

■当面の取組の方向性

- ・第5次整備計画に基づき、歴史展示の推進などの取組みが着実に進展しており、当面は基本的に現計画の方向性を継続すべきと考えられるが、歴史展示や明日香らしさを体感できる観光交流など、世界遺産登録の取組と併せたさらなる歴史的風土の創造的活用取組を進めていくべき
- ・ストーリーを作る際には、単なる観光客向けの観光案内ではなく、明日香法で守られている歴史的風土や住民の生活を踏まえて取り組んでいくべき
- ・歴史的風土の保存に大きな影響を与える農地や樹林地、空き家、古都買入地の喫緊の課題への対策を重点的に進めていくべき
- ・次期整備計画に向けて、「明日香らしさ」について、しっかり議論していくべき

■当面の施策のあり方

1. 国家基盤が形成された地に相応しい歴史展示の推進

- ・飛鳥時代の政治の中心である飛鳥宮跡及び飛鳥京跡苑池など飛鳥時代の宮都の歴史的価値とその魅力が分かるような史跡整備を進めていくと同時に、ストーリー性のある理解しやすい歴史展示・ガイド機能の充実を、AR・VR等のデジタル技術も必要に応じて活用しながら、国、県、村の三者が適切な役割分担と連携のもと推進
- ・我が国の律令国家が初めて形成された時代における政治及び文化の中心と分かる歴史的文化的遺産の計画的な発掘調査を国、県、村の三者が適切な役割分担と連携のもと推進
- ・暮らしの中に遺跡があることが明日香村の魅力であり、整備の進め方については、歴史的風土に根付いた考慮し、慎重に検討

2. 歴史的風土の維持・向上に向けた営農環境及び自然環境の保全

- ・景観保全への理解に繋げるため、継続されてきた水田の取水などが、景観形成において重要な役割を果たしていることの再認識が重要
- ・集落景観の維持・継承のため、住民の飛鳥保存に対する意識向上及び住民負担軽減の継続
- ・担い手不足が課題となっている農地や樹林地、空き家、古都買入地などへの明日香村外の企業や団体等のノウハウや人材の積極的な受入れと受け入れ環境の充実
- ・営農を行う法人や新規就農者など多様な担い手の確保や、営農の継続が可能となる戦略的な生産と販路確保や、農業と観光、商業とのさらなる連携
- ・村と地域住民が十分議論して方向性を明確化した上で、守るべき農地や里山については、その保存のためにかけられる予算や担い手を考慮し、実現可能な管理・利用の取組を推進
- ・古都買入地の適正な管理活用について、国が適切な助言等の支援を行いつつ、県と村が連携して、検討を進めていくことが必要

3. 歴史的風土の維持・向上に向けた地域の祭礼行事や伝承芸能の継承・発展

- ・郷土学習や伝承芸能継承の取組支援による、地域の歴史や文化を継承できる人材育成の継続
- ・「伎楽」など飛鳥時代の国際交流が分かる芸能の再現
- ・観光事業との積極的な連携

4. 国内外の来訪者が明日香らしさを体感できる観光交流の振興

- ・地域の有するポテンシャルを生かした持続可能な観光を推進すべく、明日香村についてより深く知ってもらい、愛着を持ってもらうための滞在型観光を推進
- ・歴史的風土が明日香法等の制度で一体的に守られているという観点のストーリーで理解を深めていただくことが重要であり、地域住民との交流等により明日香村らしさが体感できる観光メニューの検討が効果的
- ・世界遺産登録の取組と連携した明日香らしさを体感できるプログラムの充実及び、情報発信の拠点や案内機能の充実
- ・明日香らしさを体感できる視点場の設置、イベント等の展開
- ・歴史的風土と調和した滞在施設や明日香村の産物等を活用した飲食店などの創業支援・誘致の促進
- ・歴史文化資源や情報発信拠点などを効率的に周遊できる交通手段の充実や安心して周遊できる周遊歩道等の環境改善
- ・交通手段については、将来オーバーツーリズムが発生しないための具体的な対策を検討すべき
- ・来訪者の滞在・宿泊や消費に関する動向などを把握し、データに基づいた施策を検討することが重要

5. 村民が定住できる生活環境基盤の整備

- ・安全・快適に移動するための狭隘区間の道路整備
- ・利便性の高い地域交通システム整備
- ・防災情報発信などに必要なWifi環境整備
- ・定住環境向上のための整備や取組の推進

■当面の支援のあり方

- ・整備計画における奈良県事業及び明日香村事業について、県を中心として定期的に状況把握・検証・評価し、国・県により計画達成に向け努力や支援
- ・明日香村の主体的な取組による活性化を図るとともに、世界遺産登録を見据えた歴史文化・自然資源を活かした魅力向上の取組への支援を図るため、基金の運用益を改善し有効活用を図ったうえ、令和7年度以降も交付金事業を継続すべき

4. 将来的な取組のあり方に向けた今後の議論の方向性

- ・人口減少・超高齢化の進展、観光形態の傾向変化など、中長期的な社会経済状況の変化を今後も注視しつつ、明日香村における将来的な取組のあり方について、次期整備計画の策定時期までの間に、更に議論を深めるべき

■現在の社会状況を踏まえた明日香村の歴史的風土の保存と活用のあり方について

- ・明日香村内の歴史的文化的遺産に加え、古代以降連続と引き継がれている農村環境や祭礼行事など、多様な歴史的資産の総体として、明日香村の歴史的風土が構成
- ・各種規制により守られてきた、田園景観に代表される歴史的風土は、他の地域にはない価値を生じさせており、人々を惹きつけている。今後もこれを活かした取組が求められる
- ・保存されてきた景観と、それを成り立たせてきた生業の乖離が社会情勢の変化により大きくなってきており、この乖離をどう埋めるか議論が必要

■将来的な取組の基本的方向性

- ・歴史的風土の保存・活用のため、中長期的な社会状況の変化を踏まえると、世界遺産登録を見据えた取組を進めつつ、観光の高付加価値化、インバウンド対応、オーバーツーリズム対策などの施策を検討・推進することが必要では
- ・具体的には下記の方針で検討することが考えられる

○歴史文化資源の保存活用

- ・明日香村の地域や歴史全体を理解できるストーリーを整理し、そのストーリーと具体の取組が連携していくことが必要
- ・ストーリーについては、地元住民に共有されるべきであり、最終的には住民自身でそのストーリーを語ることが望まれる
- ・遺跡等の調査研究、整備を今後も継続

○歴史的風土を理解するために必要な周遊環境の充実

- ・住民及び来訪者のための交通手段をはじめ周遊環境の改善に向けたさらなる検討
- ・その際、インバウンド対応のほか、今後オーバーツーリズムが発生しないよう留意し、プライシング（価格設定）の手法も含め、できるだけデータに基づき総合的に検討

○歴史的風土保全の担い手確保及び育成

- ・農林業等の担い手の確保や生業の確保に向けた検討
- ・新規移住等の促進については、移住希望者のペルソナ（属性）を明確に捉え、取り組むべきメニューをしっかりと組み立てることが必要
- ・特に、明日香村で住みたい、事業をしたいという思いがある、若い層の移住者を増やすことが重要

○農村景観保全の取組

- ・農林業の事業性と景観保全の両方の観点に加え、人々の暮らし方・認識を丁寧に読み解いて、最適な土地利用のあり方、管理手法を総合的に検討

○飛鳥の価値の啓発

- ・飛鳥の価値について国内外に対して積極的に発信し、次世代に継承するための理解や協力を広く得ることが重要
- ・新たな価値や魅力を発見するための調査研究への協力なども積極的に行う